

## 別記様式（第4条関係）

## 会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度社会教育委員会（第1回）	
開 催 日 時	令和4年6月29日（水）13:30～15:10	
開 催 場 所	宍粟防災センター5階ホール	
議長（委員長・会長） 氏 名	委員長：中村美代子	
委 員 氏 名	（出席者） 中村美代子、宮脇昭介、志水修、田中美由紀、谷口朱美、平田安子、福田洋平、谷口浩二、前野良造、丸山記七郎、大垣陽子 （委任状出席） 田中健三、岡本美紀、中筋一人	（欠席者） 岡西清治
事 務 局 氏 名	中田教育長 （社会教育文化財課）水口課長、清水副課長	
傍 聴 人 数	なし	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の 理 由	<input checked="" type="radio"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） ・委嘱書の交付 ・兵庫県社会教育委員協議会表彰について ・社会教育関係組織、社会教育主要事業等について ・令和4年度社会教育関係主要施策・主要事業等について ・令和4年度宍粟の教育について	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	会議次第、宍粟の教育 ほか	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ 教育長、委員長</p> <p>3 委嘱書交付</p> <p>4 自己紹介</p> <p>5 兵庫県社会教育委員協議会表彰について 3名表彰（中村委員長、宮脇副委員長、志水委員）</p> <p>6 報告及び協議事項</p> <p>(1)令和4年度社会教育文化財課ほか、社会教育関係の組織について</p> <p>(2)令和4年度社会教育関係主要施策・主要事業等について</p> <p>(3)令和4年度「宍粟の教育」について</p> <p>7 意見交換</p>
委員	<p>宍粟市在住の思沁夫（す ちんふ）先生と連携し、一般社団法人北の風・南の雲と一緒に、宍粟あるもの探しプログラム 2022 を実施している。小学生が伊沢川と揖保川に6名ずつ分かれて川の流域を調査。宍粟にあるものを考えるきっかけづくりとして実施。調べたことを人に説明できるようにしたい。8月には大阪大学の学生とディスカッションを予定。</p>
委員	<p>学遊館の利用について、館長が変わり、利用ができなくなった。合宿など。宿泊できるようにしてほしい。</p>
事務局	<p>施設へ確認します。</p>
委員	<p>ワクチン接種が進み、スポーツ大会等実施予定。小学生等への案内は教育委員会（教育長）の許可が必要か。</p>
事務局	<p>各学校へ直接案内される場合は必要ない。スポーツ施設の利用については所管の市民生活部の対応となる。</p>
委員	<p>女性のためのリカレント講座とはどのような内容か。誰もが参加できるように周知を。</p>
事務局	<p>子育て世代のための講座です。在宅可能な講座を考えている。新規事業。あまり難しくなく、簡単な内容で仕事につながるものと考えている。プログラミングなど。女性の活躍の場を支援。10月以降を予定。内容は検討中。</p>
委員	<p>市内におけるWi-Fi環境整備をして頂きたい。防災センターや文化会館もそのような環境がない。インターネットやオンラインなど自前で用意しなければならない。環境（Wi-Fi）整備を望む。</p>

事務局	私たちの事業でも環境整備に苦慮している。避難所や防災関係施設での Wi-Fi 環境は整備されているが、通常の事業などでは使用できない状況である。市の担当部局へ整備を働きかけていく。
委員	有形文化財の景観形成制度について、建設部と教育委員会が連携できているのか。登録のことが心配。県からフィールドビジョンなど働きかけがある。関連も多い。地域文化として連携できる仕組みがあるか。
事務局	景観形成については、マスタープラン（宍粟市都市計画マスタープラン）に位置づけられており、今後も関係部局と連携を図っていく。
委員	子ども会活動もコロナ禍の影響で従来の活動ができていない。少子化の影響もあり、事業実施しても人が集まらず、団体競技が組めない（人数が揃わない）状況になっている。単位子ども会に対しても支援を願う。
委員	新たな文化振興事業や活動はあるのか。伝統文化や子ども事業など。
事務局	新たな事業としてはない。既存事業として、ちゃんちゃこ踊りや茶道教室などに対して補助金を交付している。
委員	ちゃんちゃこ踊りも地域の子どもの数が少なくなっており、存続が難しい状況。対応してもらえないか。
事務局	伝統文化を残していけるように、そういった取り組みを支援している。地域のみなさんの意見を聞かせていただきたい。
委員	コロナ禍で地域の祭りも中止となった。2～3年実施していない。子どもたちも踊りを忘れてしまっている。指導者も高齢化しており、そういった場がなくなるのも覚悟しなければならないと感じている。それに代わるもの、披露する場など、子どもたちに元気が出る方策を願う。
委員	子どもは一生懸命やっている。祭りがなくなって、こういう時こそ、家庭・地域・学校園所の事業で取り組めないか。方向を示すとかできないか。
委員	宍粟市スポーツ推進計画を策定中であり、する・みる・ささえる、として宍粟市の独自計画を策定中。みんなが連携してやっていく方策。共通点は宍粟の元気と考える。
委員	スポーツクラブや部活動でも子どもの減少が大きく影響している。国では先生以外の地域の指導者をとっている。宍粟でもそういったことができないか考えている。

委員	子ども会や学校との関わりがなくなっている。保護者も忙しい。そういった関わりを避けている状況。コロナ禍を理由に。保護者がめんどくさがっていないか。子どもはやりたいのに。そこが聞こえてきて残念に感じる。親も楽しめる何かを考えてほしい。
事務局	コロナ禍で世代間の意識の違いがあるかもしれない。一緒に参加できることを考えていきたい。  8 その他 事務局より連絡事項、今後の予定ほか。 9 閉 会 副委員長  15時10分 閉会